

H29年度 地域づくり部会 振り返り・評価シート

H30年2月22日作成

1 今年度の活動について

【今年度の方針】

第5期障害福祉計画に向けた長岡市における地域生活支援拠点等のあり方について検討する。

【今年度の取り組み内容】

開催回数	10回	開催月	5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、2月
------	-----	-----	----------------------------------

○具体的活動内容

(1)福祉課および基幹センターによる検討チームで、検討の進め方、メンバー、スケジュール等を検討する。
 (2)相談体制部会や地域生活移行部会との連携しながら、長岡市が目指す障害者の地域生活支援のあり方やその体制整備の方向性を決定し、そのために必要な取り組みを検討していく。
 (3)地域の関係機関の役割・機能のあり方や見直しについても検討する。(基幹センター、相談支援事業所、24コールセンター、サービス提供事業所、虐待防止センターなど)
 ※最終的には、第5期障害福祉計画において、長岡市が目指す地域生活支援拠点等のあり方や、その体制整備に必要な具体的な取り組みを明確にする。

○取り組みの結果及び成果 ※成果はモニタリングを実施した場合のみ

- ・地域生活支援拠点等の整備における概要、今後の検討の進め方、整備の方法、スケジュール等について共有を行った。
- ・地域包括ケアシステムについて、立ち上げの経緯などを含めて参考にするため、長寿はつらつ課と高齢者基幹包括支援センターから説明を受け質疑及び意見交換を行った。
- ・拠点整備に必要な5つの機能について長岡市の現状を整理し、不足している部分の洗い出しを行った。
- ・出された現状や不足している部分等について、各機能ごとに更に深める作業を行い、取り組み案を検討した。
- ・地域の関係機関の役割・機能のあり方等(24コールセンターや子ども分野の相談支援体制)について確認、検討を行った。
- ・地域生活支援拠点等の整備の障害福祉計画(案)について検討を行い、障害福祉計画に反映することができた。
- ・今後の地域づくりの中核を相談支援が担っていく位置付けとしているため、相談支援事業所(相談支援従事者)に向けて相談支援体制と地域生活支援拠点等の整備の関係性について共有の場を設けた。(相談体制部会、説明会)

2 今年度の振り返り及び評価について

【今年度、協議会活動を通じての振り返り(メンバーの感想・意見)】

メンバーが協議会での活動を通じて感じたことや気づき、今年度部会・ワーキングの取り組みに関すること、長岡市協議会の運営や体制に関する課題・意見等

- ・活動方針については、予定通り達成できたのではないか。
- 新たに見えた課題等もあることを再認識できた。
- ・改めて地域について知り、さらに充実していく必要性を感じた。
- ・5つの機能については、さらに深めていく事で、色々出てくる。
- ・包括との意見交換が良かった。→取り入れられるものがあれば、取り入れていく必要があること。
- ・地域づくりの中核は相談。→現場への意識付けが課題。
- ・拠点の整備を進めていくために、相談員の役割分担も必要ではないか。すべての人がやれるのかどうか。
- ・取組の足場固めができた。(来年度へつなげるもの)
- ・今後も、他の部会(体制部会等)との連動していく必要がある。
- ・人選が良かった。少人数で本音として話げできた。

【協議会の機能について】

今年度の活動の中で、どのような協議会の機能があったかを確認する。※協議会の機能詳細については別紙を参考。

	機能の有無	確認した機能の内容 (どのような部分が機能であったか、なかった場合はなぜなかったか等)
情報機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・部会そのものが情報機能 ・他の部会や相談員(飲み会の活用も含め)、厚労省、中越圏域会議へ取り組みを情報発信した。→発信したことが大事。情報発信は、以前の協議会の反省点だった。 ・他を含めて、発信する機会づくりの必要がある。(現場が分かる分からないは、また別の話…) ・来年は、法人等へ発信していくことも重要になる。
調整機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・包括(他分野)との情報交換を行った。 ・相談員との共有の場(飲み会)の調整を行った。→第1歩は、相談体制の再編であることを伝えた。 ・5つの機能に基づいて検討を行ったこと。 ・部会を話を事業所他メンバーへ伝える機会があまりない。 ⇒意図的につくっていかねばだめ。 ・課題＝情報発信の場をいかに調整していけるか。
開発機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・面的整備は「あるものの有効活用」であった。 ・「何が変わったか？」と言われるとまだ成果は見えないが、今後メンバー以外にも成果が伝わる必要がある。 ⇒相談が中核であるのであれば、相談が実感をもてるような取組も必要になる。 ・今年度は、開発に向けた事前準備を行った。 ・来年度の準備(地域診断)に注力する。→来年こそ、開発の年か。
教育機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員への説明会の実施 ・24コールセンターがよく分からない状態となっていることが分かった。＝今ある社会資源の状況。 ・人に情報を伝えるスキルアップは、教育機能における課題。 ・体制部会で発信した時に、相談員の教育となった。(地域づくりの必要性の理解など)
権利擁護機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・部会での検討そのものが権利擁護機能。 ⇒面的整備(緊急時の受け入れなど)、地域づくりが地域で生活するための権利擁護。 ・虐待に至る前の予防的な支援を重要としている。⇒必要な取組み。 ・地域診断(足りないサービス等の検討)。
評価機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会資源の評価(現状確認)を活動を通して行った。 ⇒地域において機能しているかどうかの確認(ex. 24コールセンターの機能、子どもの相談体制) ・強度行動障害、放課後等デイサービス、日中一時支援の利用問題等、現状の確認を行った。 ・部会での活動を通じて、新しい部会(人材育成部会)設置の必要性を感じた。 ・運営会議が協議会のエンジンとなっているか? ⇒現状・問題・課題の評価ができた。

3 来年度の取り組みについて

来年度の継続	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 終了
継続・終了の理由	地域生活支援拠点等の整備に向けて、来年度以降も年次計画に基づいて継続して取り組んでいく必要があるため。

※部会を一旦終了とする場合については、運営会議にて協議の判断材料とできるようその理由を明確に記載すること。

来年度の取り組みに対するモニタリングの実施	有	無	モニタリング実施時期	年	月
-----------------------	---	---	------------	---	---

※ワーキングのみ記載

【振り返り・評価内容を受けて、来年度改善を行うこと】 ※来年度継続の場合

会議内容や方法に取り入れることなど、具体的に記載する。

- ・相談体制部会等、既存の部会や会議との連動。
⇒役割を分けて取り組みを行う。
⇒相談支援専門員やその他関係機関への情報発信・共有。
- ・検討に必要なメンバーの再考。

【来年度の方向性・具体的取り組み内容や引継ぎ事項等】 ※来年度継続の場合

- ・地域生活支援拠点等の整備に必要な5つの機能について、優先順位を踏まえて、年次計画に基づいて検討・取組を行う。
 - ・H30年度の段階で部会・ワーキング等へ検討を広げていくのではなく、地域づくり部会にて①「緊急時の受け入れ・対応」、②「人材の確保・育成」、③「体験の機会の場」、を優先順位として検討を継続。
⇒必要な機能の検討・検証(地域診断、社会資源の確認・評価等)を実施する。
 - ・「相談」「地域の体制づくり」の機能については相談体制部会と連動して検討を行う。
- 【引き継ぎ事項】検討や取り組みを行っていくメンバーの認識統一は必須。